

日付:2025年5月25日(日)礼拝

序論

- 神様の宣教方法:
 - ① 世の人たちには愚かに思える十字架のことばを用いる
 - ② 愚か・弱い・無に等しい者を用いる
- 本日のテーマ:パウロ自身の実際がどのように宣教したのかから、信仰とは何かを学ぶ

1. 人のことばや知恵ではなく、キリストの十字架のみを語った(2:1-2)

- パウロは律法学者・ローマ市民であり知識人だった
- 哲学の町アテネから来たが、哲学的な説得を避けた
- グノーシス主義のような神秘的知識が流行っていたが、流されなかった。
- グノーシス主義は、現代のスピリチュアル的神秘主義とも共通点ある。
- この世のスピリチュアルブームのようにいかにも神秘的な真理を語るのではなく、語るべきは「キリストとその十字架」のみ

👉 適用質問:

この世に合わせず、十字架だけを語る「決心」を持っているか？

2. 弱く、恐れおののいていたパウロ(2:3)

- コリントに至るまでの困難:
ピリピでの迫害 → テサロニケ・ベレヤでの逃亡 → アテネでの冷たい反応
- アテネでの知的アプローチの失敗が心に重くのしかかっていた
- 恐れと弱さの中でコリントに到着

👉 ポイント:

弱さの中にあるときこそ、神様の力が働く土台となる

3. 聖霊と神様の力による宣教(2:4-5)

- 宣教は人の知恵によらず、御霊と御力の現れによるもの
- 使徒 18 章:
 - ・ティティオ・ユストの家に移って伝道
 - ・【主】が幻で励ます:「恐れなくて、語り続けなさい」
 - ・1 年半滞在し、伝道に専念(エペソに次ぐ長期)

👉 目的:

信仰が「神の力によるもの」となるため

結論

- 救いは人の知恵によらず、神様の力による
- 弱くても、恐れていても、キリストの十字架を語り続けよう
- 私たちの力ではなく、【主】の力が人々を救いに導く
- 信仰とは、神様の力に根ざすものである

一言メッセージ

「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけない。」(使徒 18:9)